

論文要旨

「中世後期イングランド北西高地の生活形態 ―ウィンダミア・マナを例に―」
加藤はるか

本論文は、中世後期イングランドの北西部に広がる、おおむね標高 300 メートルを超える高地地帯の農業や生活形態について、ウィンダミア・マナというマナを例に事例研究を行ったものである。

中世イングランドの農村社会の研究は長年、共同耕地制や耕作を主な生業とする地域を中心に行われてきたが、中世の農村社会は実は多様で、近年は耕作を主たる生業としない地域や非耕作地での自然資源の利用についても研究が行われるようになってきた。

そのような地域の 1 つである北西高地では、本来は狩猟場であるフォレストを放牧地として利用したり、移牧が行われていたのが特徴である。しかし史料制約ゆえに北西高地内の事例研究が行われていないのが大きな課題であった。そこで本論文では、ウィンダミア・マナを例に、フォレスト利用の実態や、フォレスト地域、非フォレスト地域の生活形態の比較、マナと領主や地域の有力ジェントリとの関係などを検討している。以下、本論文の要旨の紹介を行う。

まず「はじめに」において、これまでの研究史の概要、上述のような課題の設定と方法論を提示した。続いて第 1 部「中世イングランド農村研究の現状」では、第 1 章で本論文に関する農業の地域区分にまつわる研究史と、耕作を主たる生業としない地域の近年の研究動向を整理し、第 2 章で本論文ととりわけ深くかかわるフォレスト研究、林地史、入会地の研究史を整理した。

第 2 部「ウィンダミア・マナを取り巻く状況と史料」では、第 3 章でウィンダミア・マナの概要と領主について、第 4 章では事例検討で用いる主な史料である、ウィンダミア・マナの慣習法（村法）と、2 回分のマナ法廷の記録について考察し、第 5 章でマナの役人や、マナを分ける村落と管区の違いなどウィンダミア・マナの支配の基本構造と、北西高地の典型的な農村の景観とウィンダミア・マナの景観の比較などを行った。ウィンダミアは北西高地に典型的な丘陵地のフォレスト地域と、比較的平坦でウィンダミア湖に面した非フォレスト地域に分けることができ、中世後期には王族を中心とした不在領主がほとんどであった。

続いて第 3 部「ウィンダミア・マナの生活形態とフォレスト」では、第 6 章でウィンダミア・マナ内にあるフォレストが、どのようなルールや役人、法廷などのシステムによって管理されており、またどのようにその自然資源が住民に利用されていたのかを考察した。ウィンダミアではフォレストの特別の法廷が存在せず、フォレストでの家畜についてのルール違反の取り締まりと罰金の徴収が、マナの役人によりフォレスト以外の違反と共に扱われていた。またフォレストでの放牧はフォレストの住人によるのみ、木材の採取はフォレストの外の住人にも認められていたことが明らかとなった。

第7章ではフォレスト地域の放牧について、さらに第8章で放牧を含めた非フォレスト地域の生活形態について考察した。フォレスト地域では、北西高地に典型的な秋から冬は谷の定住地付近で家畜を放牧し、春から夏は家畜を丘に移動させて放牧する移牧が行われていた。一方で非フォレスト地域では共同放牧地や囲い荒蕪地などの時期が制限されない放牧場所が存在し、高低差も少ないことから移牧が行われていなかった可能性がある。非フォレスト地域ではウィンダミア湖での漁業を行っていたと推測され、放牧、耕作、漁業、毛織物生産など多様な経済活動が行われていたと推察される。

そして第9章では地域政治社会の動向とそれまでの考察を踏まえた上で、領主や有力ジェントリとウィンダミア・マナの関係性を考察した。領主にとって周辺の所領の中でもウィンダミアは資産的価値が高く、特にフォレストの価値が高かった。そこで領主は狩猟の為ではなく、住民の入会権を制限し、自然資源の利用に対する使用料収入を得る目的で、フォレストという枠組みを重要視していたのではないかと考えられる。

また周辺地域で特に有力であったジェントリがフォレストでの利権を手に入れていることも明らかとなった。ウィンダミアの周辺ではそれほど高額な収入源はなく、ウィンダミアの狩猟園やウィンダミア湖の漁業権は、地元のジェントリたちにとって高い収入が見込める魅力的な権利だったと推測される。しかし短期的にはウィンダミアと密接に関わり、その暮らしにも影響を与えたであろうジェントリ家門もあったが、中世後期に一貫してウィンダミアに強い権益と関わりを持った家門は存在しなかった。

以上の本論の後、「結びに」においてこれまでの論を総括した。まずウィンダミアにおいてフォレストは重要性が高く、領主も高い収入が見込めるその権益を守るために、フォレストという枠組みを積極的に利用していたと推察でき、これが北西高地におけるフォレストの特徴の1つであった可能性がある。またウィンダミアでは、フォレスト地域のように先行研究に合致する地域だけでなく、放牧以外にも漁業など多様な経済活動を行っていた地域があったと推測されることから、北西高地の多様性を指摘した。さらにウィンダミアではマナの下にフォレストや村落などのいくつもの枠組みが重層的に存在しており、それに伴い重層的に共同体が存在していたとみられることも指摘した。